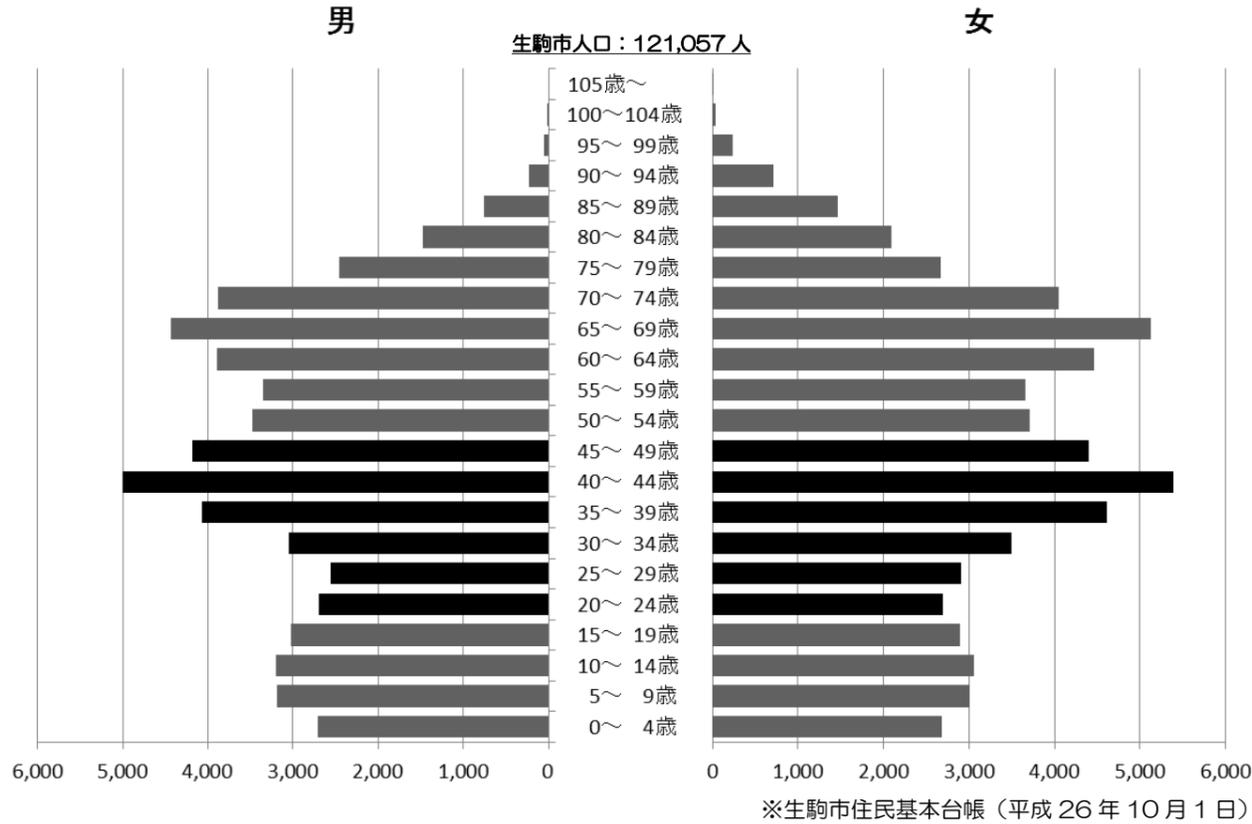


平成 26 年度 生駒市議会 市民懇談会 資料：生駒市の人口（若者定住の状況）

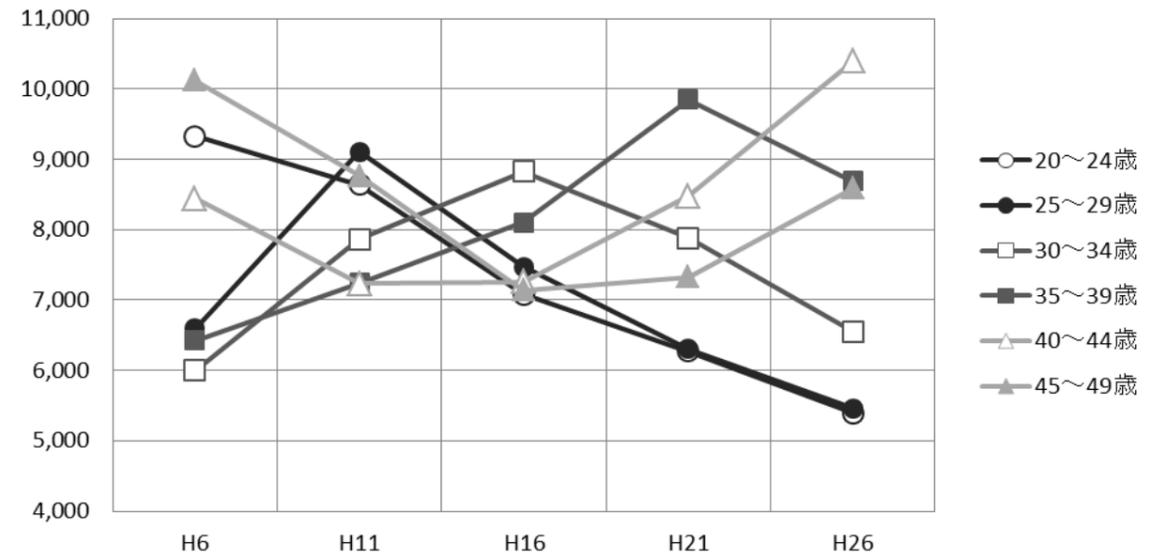
○団塊の世代、団塊ジュニア世代の割合が大きく、40代前半の割合が特に大きい。
 ○20歳から34歳までの割合が小さく、特に20代の割合が小さい。

○近年では、20代、30代が減少傾向にあり、逆に40代は増加傾向にある。
 ○20代前半のコーホート(※)は5年後(20代後半)に大きく減少し、逆に20代後半・30代前半のコーホートは5年後(30代前半・30代後半)に大きく増加している。(ただし、平成6年から平成11年の間では、30代前半のコーホートは減少している。)

年齢別人口

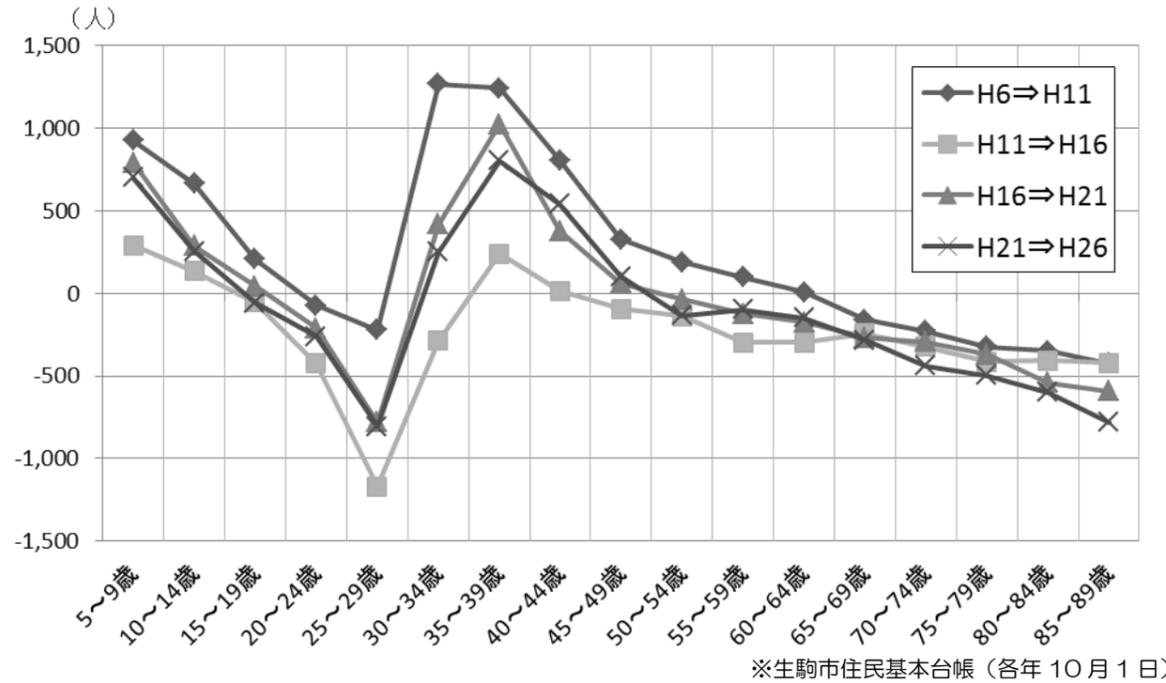


年齢別人口の推移(20～49歳)

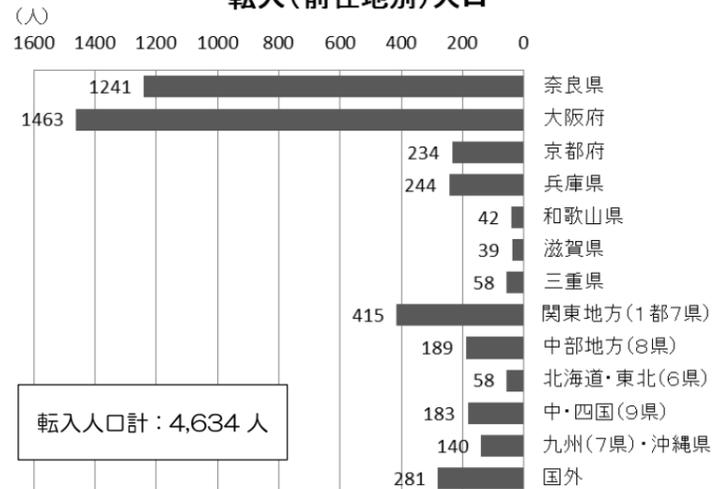


○奈良県内、大阪府との間の移動が多く、転入者（前住地）の58%、転出者（転出先）の49%を占めている。
 ○奈良県、大阪府の間では転入超過となっている。他方、中四国を除く地域の間では転出超過となっている。

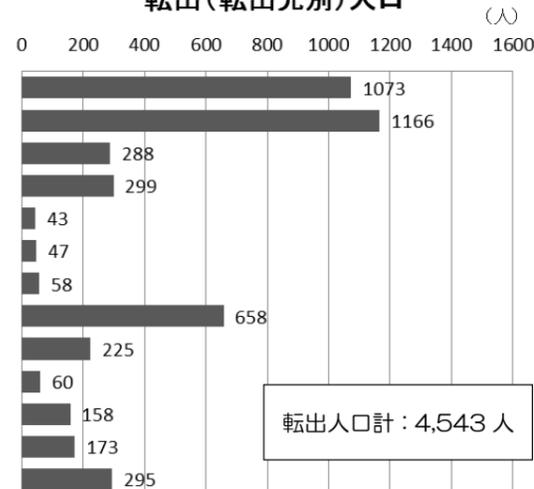
コーホート(5歳別)の人口変化



転入(前住地別)人口



転出(転出先別)人口

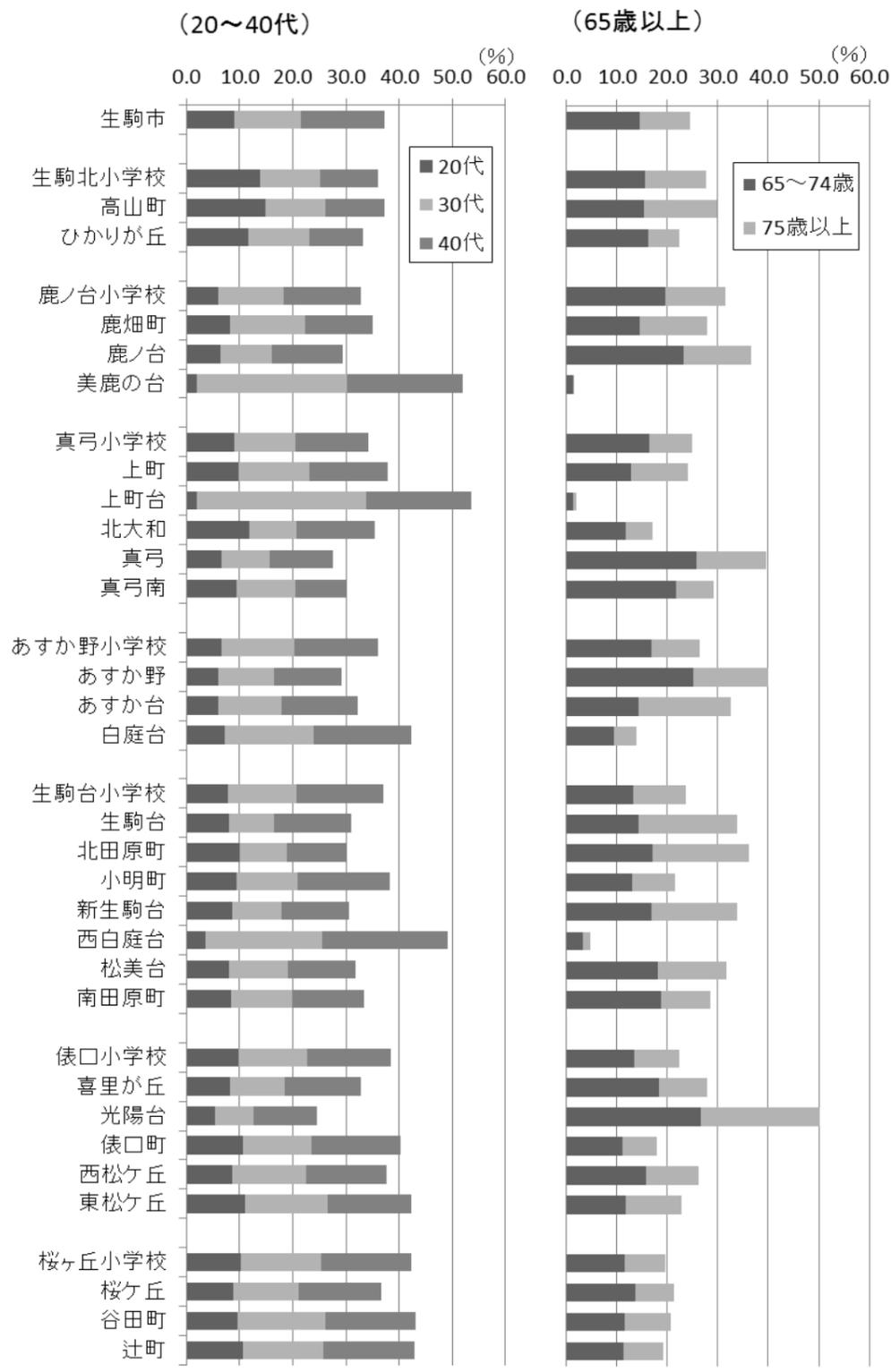


※住民基本台帳人口移動報告（平成24年度）

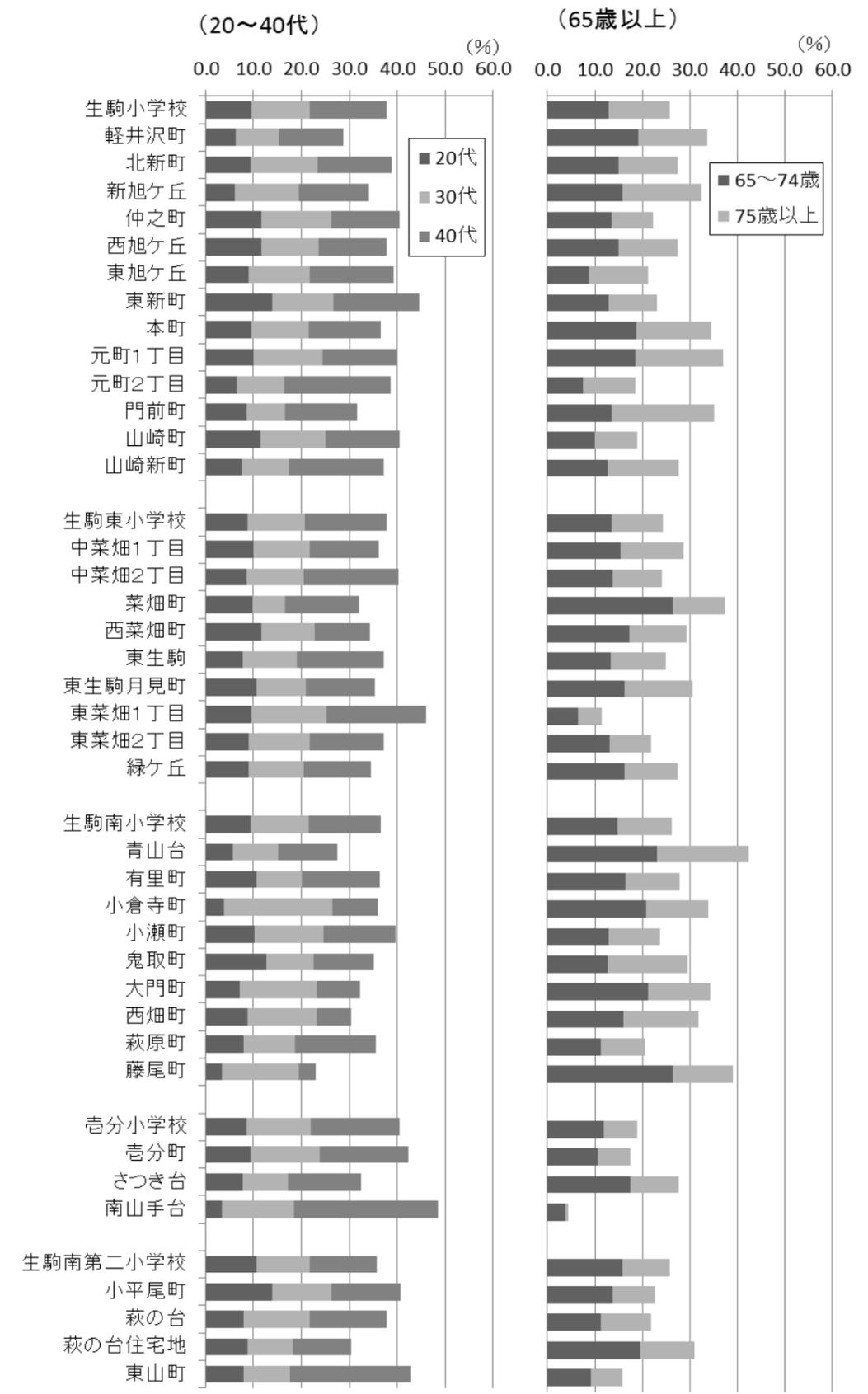
※コーホート：共通した因子を持ち、観察対象となる集団のこと。ここでは同じ年齢（5歳別）の集団を意味する。このグラフでは、例えば平成16年に5～9歳の集団が10～14歳になる5年後（平成21年）にどれだけ増減したのかを示している。

○若者層（20歳～49歳）、高齢者層（65歳以上）の割合は地域によって大きな差が見られる。
 ○若者層の割合が特に大きいのは、美鹿の台、上町台、白庭台、西白庭台、南山手台、東山町といった新しく開発された住宅地、及び東松ヶ丘、谷田町、辻町、東新町、東菜畑1丁目、壺分町である。
 ○高齢者層の割合が特に大きいのは、真弓、あすか野、光陽台、青山台といった古くに開発された住宅地、藤尾町といった旧集落地域である。

地域別・年齢別人口構成



地域別・年齢別人口構成



※生駒市住民基本台帳（平成26年10月1日）